

蜜柑畑の景観形成要因と土地の利用変遷からみた熊本市河内町の地域特性

準会員 ○前村実優*

正会員 辻原万規彦** 岡本孝美***

蜜柑小屋
貯水槽農道
河内町史モノレール
空中写真

1. はじめに

熊本市西区河内町は熊本市の北西部に位置し、西側は有明海に面している。大半の住民が蜜柑栽培に頼って生活している¹⁾。一方、栽培適地の北上や、後継者不足の問題などから、河内町の蜜柑畑の農地面積は最盛期の約半数になった²⁾。これらを考慮すると蜜柑畑の変遷を踏まえて現状を記録し、地域特性を理解することが重要である。本研究では、テリトリーオ³⁾などの考え方を参考に、領域史の観点から河内町の地域特性を明らかにする。

2. 調査方法と河内町の蜜柑畑の概要

現地調査は、2025年6月から2026年1月にかけて約25回実施し、関連施設と運搬設備を目視で記録した。蜜柑畑の開墾時期、水田との混在、運搬設備の整備時期の把握にはQGISを用い、河内町史⁴⁾に記載された「河内町蜜柑園分布概要」と国土地理院⁵⁾の1964年、1978年、2008年の空中写真を重ねた。施設や設備の使用状況に関する聞き取り調査は、住民やJA熊本果実連を対象に行った。

調査対象とする施設や設備は、運搬の効率化と栽培地の変遷や歴史的背景の中で変化したものであり、地域特性を理解する上で必要不可欠な要素である(図1の凡例)。

3. 早くから蜜柑畑が広がる地区

各地区に共通して、モノレールは45度までの傾斜の地形で高低差の克服を目的として配置された²⁾。農道整備が比較的早かった白浜地区(図1の②)では、モノレールが少なく、整備が遅れた中川内地区(図1の①)では補完のためにモノレールが数多く導入された。農道の拡充により運搬効率が向上した結果、モノレールの本数や蜜柑小屋の数が減少したことも確認された²⁾。

蜜柑小屋は、50～70年前の人力開墾が主流だった時代には必要不可欠な施設であったが、現在は収穫物を自宅で保管する農家が増えている²⁾。しかし、農道沿いに位置する蜜柑小屋は、車両への積み替え時に運搬効率がよいと、現在も継続して利用されていると考えられる。

貯水槽は、古い蜜柑畑に多く、現在は中川内地区と白浜地区に多く配置され、小川が多い清田地区(図1の③)では少ない。各地区の小川などの自然環境の差異が施設や設備の配置に影響すると考えられる。

4. 南北斜面で蜜柑畑や施設と設備の配置が異なる地区

この2地区でのモノレールの配置には、南北の斜面方向によって独自の工夫や歴史的経緯が反映されている。尾跡地区(図1の④)では、配線意図に明確な差がある。新しく開墾された北側斜面では、住居まで直接モノレールが続く。索道の導入がなかった南側斜面では車での運搬を想定し、モノレールが農道までを繋ぐ配置である。

野出地区(図1の⑤)では、南側斜面で急な斜面の地形を克服するため、モノレールが確認できるが、北側斜面にはない。北側斜面は水田から転換された経緯があり、比較的平坦な地形や既存の水路を利用できたため、土地の利用変遷が設備に影響したといえる。

5. 歴史的背景により個別の工夫がみられる地区

特定の歴史的背景を持つ2地区では、個別の工夫が確認できる。塩屋地区では、水害後に蜜柑畑が集落から離れた場所へ拡大した⁴⁾。そのため、本来は畑の中に点在するはずの蜜柑小屋や貯水槽が集落内にも配置された。農道の整備の遅れを補うため、農道の上をまたいで住居まで続くモノレールが設置されるなど、設備の配置状況から、歴史的な経緯と個別の工夫がみてとれる。

出羽地区は、ブルドーザーによる大規模な開墾が行われた唯一の地区である⁶⁾。そのため、段々畑の奥行きが広く形成され、運搬車などの農業用機械の導入が容易となり、関連施設や運搬設備が極めて少ない。

6. まとめ

本研究では、斜面地に広がる河内町の7地区を対象に、蜜柑畑と関連施設ならびに運搬設備の変遷をもとに地域特性を分析した。その結果、傾斜や集落からの距離などの地理的要因や、農道整備や災害などの歴史的経緯が土地利用の多様性を生み出したことがあきらかになった。

参考文献

- 1) 河内町史編集委員会編：河内町史 蜜柑・民俗編、河内町、1987.3
- 2) JA 熊本果実連、(株) ニッカリおよび河内町の住民、農家からの聞き取り調査の結果による。
- 3) 木村純子・陣内秀信：イタリアのテリトリーオ戦略 甦る都市

と農村の交流、白桃書房、2022.8

- 4) 猪飼隆明編：河内町史 通史編 下、河内町、1991.1
- 5) 国土地理院：国土地理院地図（電子国土 web）、2025.7 閲覧
- 6) 河内町史編纂委員会編：河内町史 地誌編、河内町、1991.1
- 7) 河内町各地区の地図は、地形図（国土基本図 9（1/25,000）

をもとに、畑の開墾時期や、施設や設備を追加して作成。

謝辞

本研究の調査の実施にあたり JA 熊本果実連、河内町の蜜柑農家の皆様にご協力いただいた。記して謝意を表す。

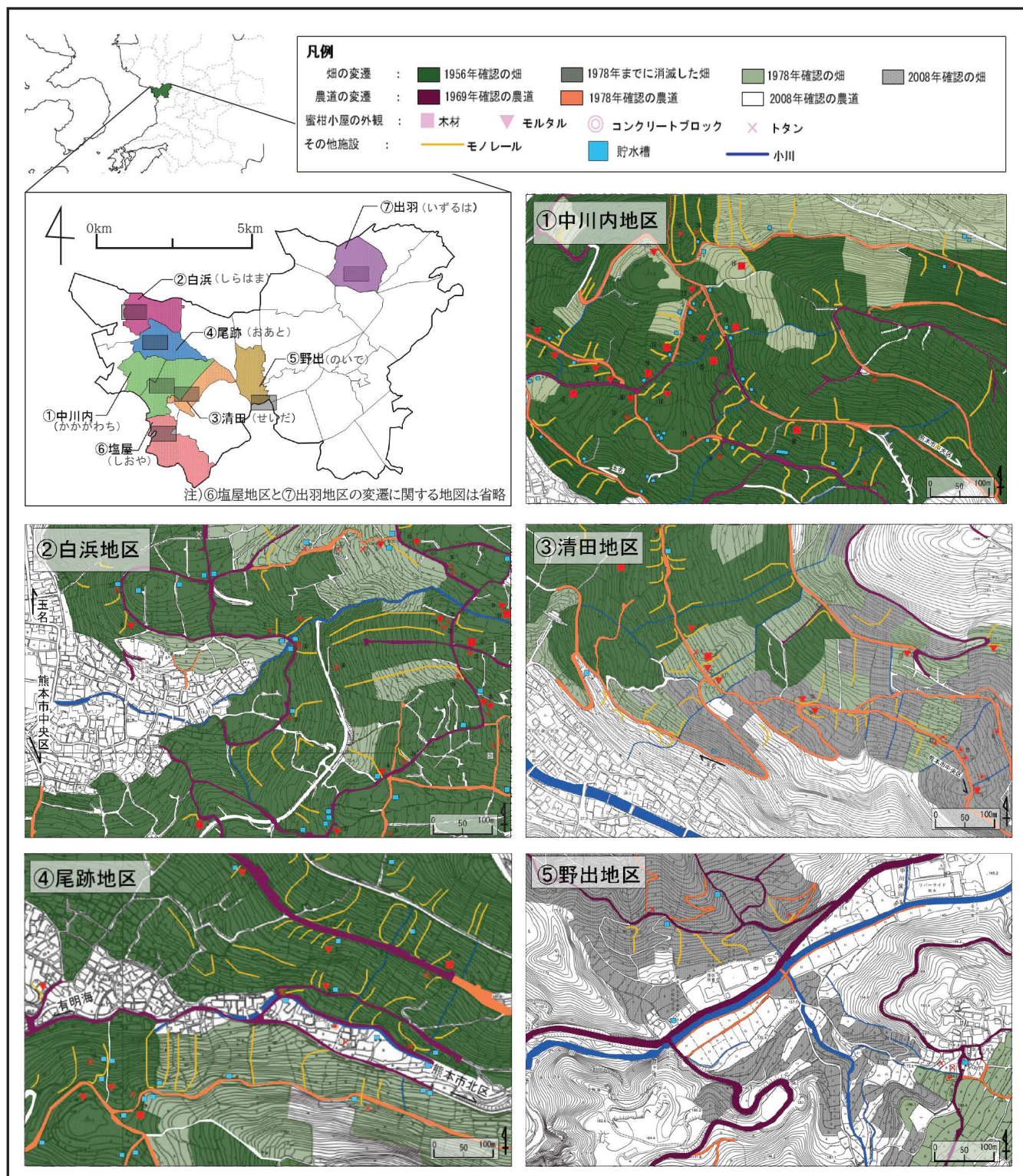


図1 地図上にみる河内町の地区ごとの蜜柑畑と関連施設ならびに運搬設備の変遷⁷⁾

*熊本県立大学院環境共生学研究科 大学院生
**熊本県立大学環境共生学部 教授・博士（工学）
***熊本県立大学環境共生学部 助手・修士（工学）

*Graduate Student, Prefectural University of Kumamoto
**Prof., Prefectural University of Kumamoto, Dr.Eng.
***Assistant, Prefectural University of Kumamoto, M.Eng.